

20年間の内科の変遷と今後の展望

服 部 修 三

キーワード：大学医局派遣；雲南市出身の島根大学医学部地域枠；総合診療

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 23-25)

はじめに

開院50周年記念誌発行以来、すなわち平成10年4月以降20年間の内科医師および内科診療の変遷について振り返ってみたいと思う。

大学医局からの派遣時代

内科のこの20年間は分散、集合、分散の歴史であった。平成11年9月、立古浩雅医師、高村俊行医師を最後に岡山大学（以下、岡大）第一内科（現消化器内科）は撤退し、入れ替わりに岡大第三内科（現腎・免疫・内分泌代謝内科）から矢野隆介医師、愛医師夫妻が赴任し、以後、竹山貴久医師、佐々木基史医師（現在松江市立病院糖尿病科勤務）、福岡晃輔医師、近藤天韻医師が続き、腎疾患、腎生検、血液透析の分野を中心に、内科診療を担当した。同時期、開設間もない岡大循環器内科（第一、第二内科の統合）から藤尾栄起医師、河野晋久医師、浦川茂美医師と続き、最後は島根大学（以下、島大）第四内科（循環器内科）より田中光一医師が派遣され、循内専門外来が開設された。さらに同時期、島大第一内科（糖尿病、内分泌）より大國智司医師が赴任し、糖尿病、内分泌疾患の診療が充実した。平成13年12月同教室より和田昌幸医師、続いて林公美医師、太田（旧姓、現守田）美和医師が研修医として追加派遣された。一方、引き続き島大第二内科（消化器）より平成11年4月奥山俊彦医師の後任に橋本朋之医師が赴任し、消化器疾患症例の増加と診療内容の厚みがみられた。在職7年間に同教室の若手が

入れ代わり立ち代わり赴任し、十分な教育、指導を受け、数多くの臨床症例を経験した。その内石村典久医師、飛田博史医師、川島耕作、大嶋直樹医師等は、現在大学で主要なポストに就き、消化器疾患、肝疾患の臨床研究、診療に従事している。この時期、内科医師は最大11名を数え、開院以来の大盛況であった。

医局派遣撤退時代

平成16年4月新臨床研修医制度の始まりとともに、岡大循環器内科、島大第四内科、岡大第三内科、そして島大第一内科の順に医師の撤退が始まった。全国を喧騒に巻き込んだ大学医局からの医師の引き上げ、そしてその後の地方病院崩壊の波が当院にも容赦なく押し寄せてきた。平成3年4月より赴任し、13年の長きに亘り、内科そしてリハビリテーション科を担当した石原京医師も時を同じくして退職した。その後、引き続き島大第二内科から細々と医師派遣を繋いでいる間、平成18年7月、平田市立病院（現出雲医療センター）退職後の山本俊医師（岡大第一内科出身）を招聘した。一方、医師引き上げは止まるところを知らず、ついに平成19年3月を最後に島大第二内科よりすべての医師が引き上げ、平成20年1月守屋昭男医師（山本先生に1年間随伴）の岡大第一内科への引き上げ後、大学からの医師派遣は途絶え、終了を迎えた。

医師招聘への第三の道時代

平成19年4月曾田一也医師が公立邑智病院から転勤し、その後老健施設経営の田中敬康医師（元鳥取大学

雲南市立病院内科

著者連絡先：服部修三 雲南市立病院内科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

内 科

第一内科) が加わり、中高年医師 4 名の内科診療体制となった。平成23年度の1年間、紅一点の若き消化管内視鏡専門医鈴木恵子医師(山口大学大学院在籍)が加わり、無味乾燥の内科にひと時の花を添えてくれた。平成25年3月山本医師の退職後、1年間、曾田医師、服部の2人で乗り切り、平成26年4月からは松野医師(元島根大学第四内科、2019年3月退職)と若手の永瀬正樹医師(久留米大学出身、加茂町本永瀬医院後継予定者)が加わった。その後、当院を外部から支えるNPO法人の紹介、仲介により、沖縄中部病院での家庭医療専門医研修から引き続き笠芳紀医師、太田龍一医師が1年ごとに順次赴任し(笠医師は研修最後の時期を当院プログラムに乗り換え終了)、さらに平成29年4月公立邑智病院より遠藤健史医師(自治医科大学義務年限終了後)が赴任し、平成31年3月末現在の内科診療体制が整えられた。

今後への期待

この20年間の目まぐるしく変遷した内科を赴任医師を中心に概観したが、平成30年3月新本館棟開設とともに内科診療も落ち着きを見せた。新臨床研修医制度も15年を経て安定し、雲南市出身の島大医学部地域枠の医師も順次増加し、今後内科医師確保に期待が持てるものと思われる。地域総合診療科が平成22年に立ち上がり、外科医師と内科医師が協力し、外科、内科の垣根を越えて救急から急性、亜急性疾患に対応し、今や内科は地域総合診療科内科部門と呼ぶにふさわしい実態となっている。今後内科診療は、内科の専門分野は従来通りの専門外来とし、幅広く内科疾患を診ることのできる総合診療医の活躍する場となるであろう。

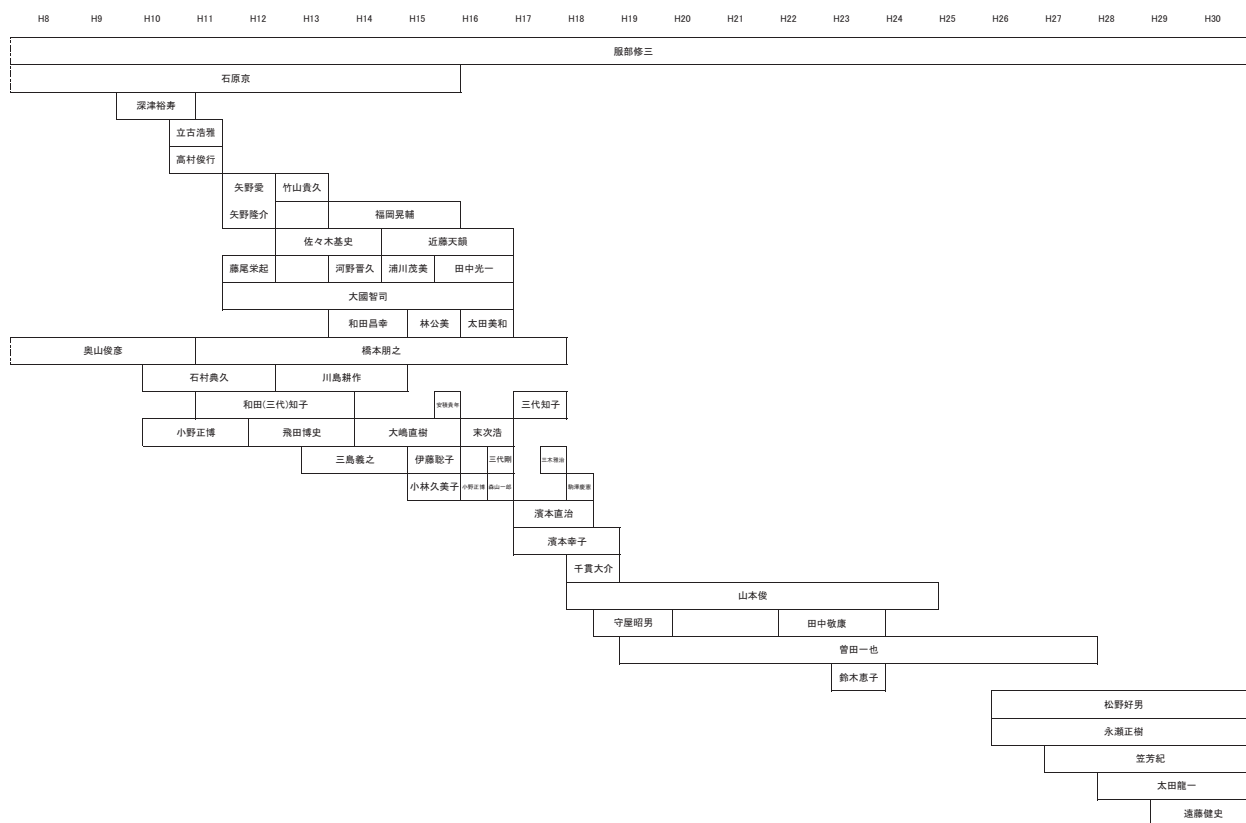


図1 内科歴代赴任医師

内 科

Twenty year history and future perspective of the department
of internal medicine in Unnan City Hospital.

Shuzo Hattori

Department of internal Medicine, Unnan City Hospital

Correspondence: Shuzo Hattori, MD, PhD, Department of internal Medicine, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp